

# ぱくぱくタイムス

令和4年1月24日  
桶川市立桶川西小学校  
1月号



いつも食べている学校給食について考えよう！  
そして、毎日おいしい給食が食べられることに感謝しよう！

日本の学校給食は、山形県鶴岡市でお弁当を持ってこられない子供のために、おにぎりと簡単なおかずを出したことが始まりとされています。



1月24日から30日は**全国学校給食週間**

“全国学校給食週間”とは・・・

第二次世界大戦という戦争では、国中の食べ物足りなくなり、学校給食を続けることができない時期がありました。戦争が終わって、日本の子供たちに、栄養のある食事をとってほしいと、外国から多くの食べ物が贈られ、学校給食を再開することができました。このことを記念して、全国学校給食週間がつけられました。



調理員さんが、給食の後かたづけをしているところに出会いました。

こんな時、なんと言いますか？



調理員さんは、朝早くから給食時間に間に合うように、11人で桶川西小の約790人分の給食を作っています。そして、配ぜんや後かたづけもしています。

昼休みに、給食のかたづけをしている調理員さんに出会ったら、ぜひ感謝の気持ちをこめて「おいしかったです」「ごちそうさまでした」とあいさつをしましょう。

## 保護者の皆さまへ



新しい年が始まりました。今年も健康で元気に過ごせるよう、家族みんなで毎日の食生活を大切にしていきましょう。

給食室も子供たちの心と体の栄養を満たすおいしい給食をつくっていきますので、今年もよろしくお願いいたします。

## 全国学校給食週間にちなんで 24~30日

1796年ドイツのミュンヘンで、貧しい家の子供の救済と就学の奨励のために給食を実施したのが世界で一番初めての学校給食と言われています。やがて、1849年パリ、1855年ニューヨーク、1864年ロンドン・・・と世界各地で始まりました。

そして、1889年（明治22年）山形県鶴岡市私立忠愛小学校でお弁当を持ってこられない児童のために「おにぎり、焼き魚、漬物」の給食を用意したのが日本の学校給食の始まりです。

やがて、体の弱い子や学校に来られない児童救済のために全国各地で給食が実施されるようになりましたが、戦争が激しくなると給食は中断されました。

第2次世界大戦後、食糧事情は大変ひどく、栄養不足の子供を救うため、各国からの援助のもとに給食が再開されました。この援助はユニセフを通じて、1964年（昭和39年）まで続けられました。

そして今、日本は大変豊かな国になりました。お金さえ出せば、何でもいつでも手に入る時代。だからこそ、たくさんの食品の中から、何が自分に必要かを選び、考えて食べることが求められています。栄養に気を付け、好き嫌いなどを減らし、健康な体になろうということよりも、「簡単」で「食べ物もオシャレでカッコイイものに」という人が増えていることも確かです。

食べることは、私たちの心と体に力を湧き立たせる源です。おいしいものを食べると、自然と笑顔になったり、元気になったりしますよね。給食を通して、“食べることの大切さ”を考えるきっかけになればと思っています。そして、その陰には多くの人の働きや力があることを忘れないでほしいです。

